

第5章 みどりグループの取組

I みどりグループについて

＜児童生徒の様子＞

みどりグループには21名（小学部15名、うち訪問1名、中学部2名、高等部4名、うち訪問1名）の知的障害と肢体不自由を併せ有する児童生徒が在籍している。小・中学部では、児童生徒の実態や教育的ニーズに合わせて、教育課程を【A】、【B】の2つのグループに編成している。【A】グループは各教科等を合わせた指導を行い、日常生活の指導や生活単元学習、教科（国語、算数／数学）を中心としたグループである。【B】グループは自立活動を中心としたグループである。

＜2年目の研究＞

2年目は、教育課程の違いを問わず全児童生徒が共通して取り組んでいる日常生活の指導について、朝の会に焦点をあてて取り組んだ。朝の会について、各教科等との関連を洗い出して記載した題材記録表や、その日の体調との兼ね合いや変容などを踏まえて評価できる行動記録評価表を作成することができた。その一方で、題材記録表や行動記録評価表を作成するのに時間を要し、その後、十分に活用することが難しかった。また、教科の前段階にある児童生徒については、各教科等との関連を見つけることや、3観点全てについて目標を立てること、個人差が大きすぎるため評価規準を設定することが難しいという課題が授業実践の中で明らかになった。

＜3年目の研究＞

2年目の研究と全校研究テーマを受け、引き続き朝の会に焦点をあて、3年目は、題材記録表と行動記録評価表の改善・活用を行う。題材記録表については、教科前の発達段階にある児童生徒が大半を占めるため、関連する教科的要素は少ないが、授業要素として各教科等との関連を洗い出し、それらを最大限意識して指導にあたるようにした。行動記録評価表については、重複障害の児童生徒は個々の実態の差が大きく、評価規準を定めることや、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全ての目標を立てることは難しいため、評価規準は設けず、1つの観点について目標を立てることにした。評価では、個々の変容を記入する欄には、単元の途中経過と、目標を達成できた日付を記入し、成長の様子が分かるものにした。それらの活用を通して、授業がより児童生徒の実態や将来像に合ったものになればよいと考えた。

II 研究の目的

- 朝の会の授業要素として関連する各教科等の内容を洗い出し、題材記録表にまとめ、肢体不自由を併せ有する児童生徒の実態に合わせてながら、各教科等の内容との関連を意識した授業を行う。
- 行動記録評価表の作成と活用を通し、より発達段階に合った評価の方法を探り、支援に活かす。

Ⅲ 研究の方法

○題材記録表の改善・活用

- ・学習グループごとに、朝の会について授業要素として関連する各教科等の内容を洗い出した題材記録表を作成する。
- ・題材記録表をもとに、各教科等の内容との関連を最大限意識して指導支援を行う。
- ・授業研究会において、講師の指導を受ける。
- ・前期末まで活用した後、題材記録表にまとめた各教科等の内容との関わりを意識しながら指導支援を行うことができたかを振り返り、また、今後の活用等について検討する。

○行動記録評価表の改善・活用

- ・昨年度作成した行動記録評価表のひな形を活用し、学習グループごとに全児童生徒の目標・評価基準を設定する。
- ・夏休み前までの指導支援の経過と、目標を達成できた日付を記入する。
- ・7月末に見直しを行い、発達段階に応じた記入の仕方を再検討する。
- ・改善されたものを後期の評価に活用し、次の目標設定や手立ての工夫につなげる。

1 題材記録表

みどりグループ 日常生活の指導 題材記録表

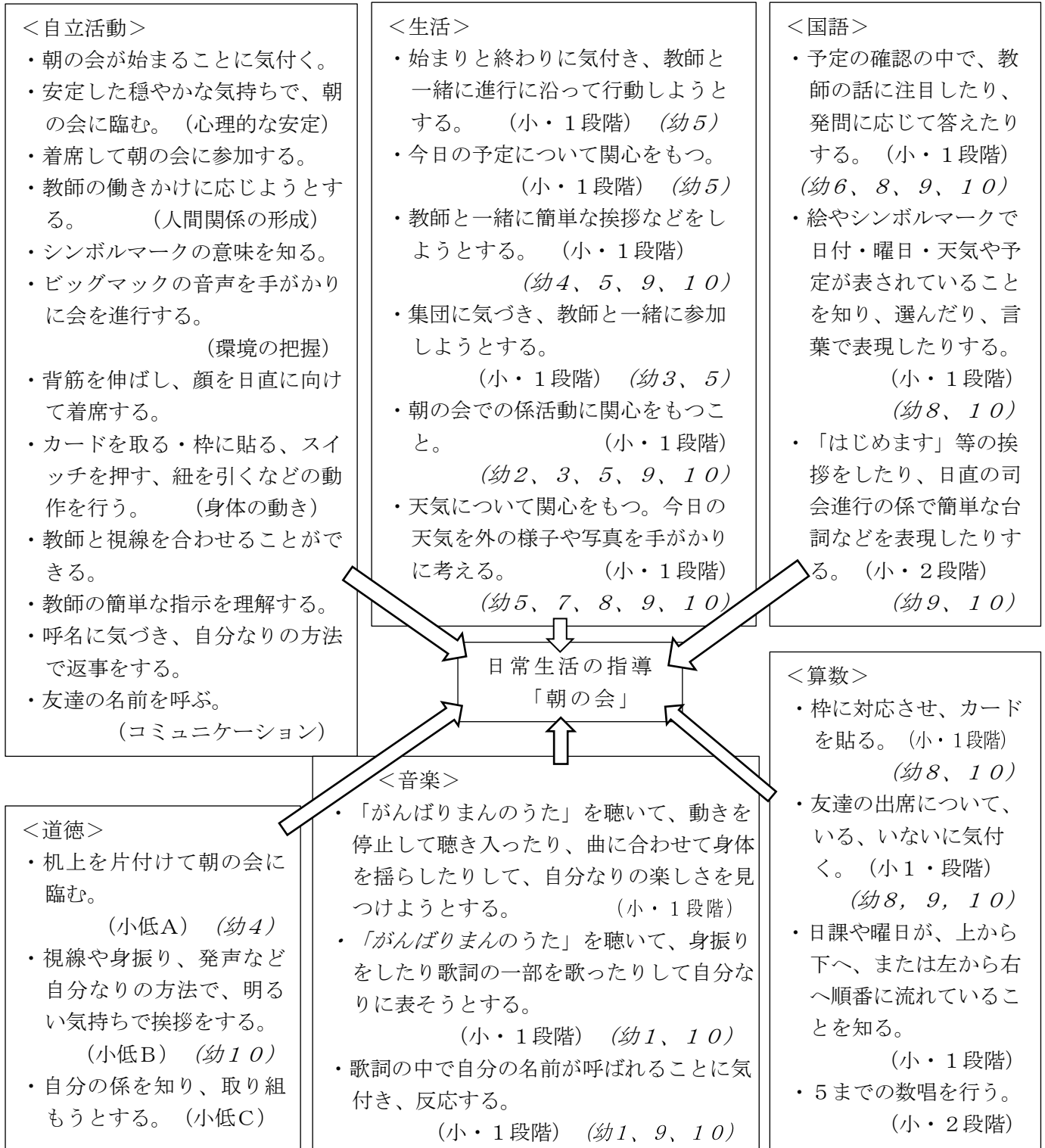
学校教育目標	子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校～夢を・みんなと・笑顔で～
めざす児童生徒像	○健康で元気な子 ○夢をかなえようとする子 ○思いやりのある心豊かな子 ○すすんで学び、考え、行動する子
小学部 学部目標	○基本的な生活習慣を身につけ、健康で丈夫な体を育てる。 ○学習活動や身の回りのことに主体的に取り組む力を育てる。 ○人や物との関わりを豊かにし、自分や回りの人、物を大切に作る態度を育てる。 ○生活に必要な知識・技能を身につけ、自分から考え行動したり表現したりする力を育てる。
中学部 学部目標	○体力の向上と健康の保持増進を図り、心身ともに充実した生活を送る力と態度を育てる。 ○身近自立を図り、目標に向かい、社会とつながりを持ち主体的に活動する力を育てる。 ○集団の中で活動する楽しさを味わい、豊かな人間関係を築く意欲や態度を育てる。 ○日常生活につながる知識・技能・態度を習得し、自ら考え行動する力を育てる。
高等部 学部目標	○運動に親しみ、体力の向上を図り、心身ともに健康で安全な生活を実践する力と態度を育てる。 ○自立と社会参加への意欲を養い、目標に向かい、主体的に生きる力を育てる。 ○集団生活を通して互いに認め合い、豊かな人間関係を築く意欲や態度を育てる。 ○社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的能力を育てる。



日常生活の指導年間目標 (小学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身辺処理、または、それらについて支援を受け入れること等、日常生活に必要な習慣や技能を身につけることができる。(知識・技能) ・1日の学習に見通しをもったり、朝の会や帰りの会、友達や教師との関わりの中で、考えたことを表現したりすることができる。(思考・判断・表現) ・挨拶や身辺処理、係の仕事などをすすんで行おうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)
日常生活の指導年間目標 (中学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで身だしなみを整えたり整理整頓をしたりする等、日常生活に必要な習慣や技能を身につけることができる。(知識・技能) ・学年や異年齢集団の中で挨拶や言葉遣いなどを考えて表現することができる。(思考・判断・表現) ・挨拶や係の仕事等に自信をもって取り組もうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)
日常生活の指導年間目標 (高等部)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や言葉遣い等、社会生活に必要な力や身だしなみ等の習慣や技能を身につけることができる。 ・交通ルールの理解や金銭の扱い方等、社会生活に必要な技能を身につけることができる。(知識・技能) ・社会生活に必要な、伝える手段や方法、手順について理解し、活用することができる。(思考・判断・表現) ・社会生活を意識し、係活動や清掃活動等の自分の役割を最後まで行おうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

題材名	「朝の会」
題材目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日課表を見ることで、一日の活動内容を知ることができる。(知識・技能) ・日直や曜日等の係の仕事や、自分の役割を行うことができる。(思考・判断・表現) ・友達の動きに注目したり関わったりすることで集団を感じ、朝の会に意欲をもって参加することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

< 題材と各教科等の内容との関わり > ※児童の活動より抜粋、学部・段階は学習指導要領の内容



※ (幼～)
幼稚園教育要領 参照

<「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり>

主体的な学び（興味・関心、見通し）	対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える）
・興味・関心、可能な動作から、適切な係活動を設定する。	・呼名で友達の名前を呼ぶ場面を設定する。
深い学び（知識を相互に関連づける、振り返り）	
・呼名の返事に対して、即時評価をする。 ・係活動の取り組みに対して、即時評価をする。	

<学習の内容>

月	主な活動内容	関連する各教科等の内容
6月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ○始めの挨拶 ○歌（CDボタンを押す、歌を歌う、聴く） ○呼名・人数（呼名を聞いて返事をする、友達の名前を呼ぶ） ○日付・曜日・天気（ボードに貼られた日付・曜日・天気を見る、言う、サインで表現する） ○今日の予定（日課のシンボルカードを見る、言う、サインで表現する） ○今日の給食（給食ボードを開く、給食の写真カードを見る） ○終わりの挨拶 	<p>生活：始まりと終わりに気付き、教師と一緒に進行に沿って行動する。</p> <p>音楽：自分なりの楽しさを見つけようとする。</p> <p>道徳：視線や身振り、発声など自分なりの方法で挨拶をする。</p> <p>算数：枠に対応させ、カードを貼る。</p> <p>生活：天気について関心をもつ。</p> <p>国語：絵やシンボルマークで日付・曜日・天気や予定が表されていることを知る。予定を言葉で表現する。</p> <p>生活：今日の予定について関心をもつ。</p> <p>生活：始まりと終わりに気付き、教師と一緒に進行に沿って活動する。</p>

<評価>

○題材の振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・一年生は日課のシンボルに初めて触れてきたが、一日の活動内容を知ったり理解できるようになったりした児童もいる。日課表では一日を見通すことが難しい児童もいるが、朝の会後に、「次は〇〇です。」と伝える際は、サインを理解して次時の活動を知ることができている。[対] ・係の仕事では、一定期間固定して係活動を継続することで「自分の仕事である。」と理解して取り組んでいる様子があった。CDや給食ボードなどの操作物を目の前に持っていくと、自然と注目し、手が主体的に伸びたり、「曜日」と言うと「はい」と挙手して自分の仕事であることを主張したりすることができた。[主][深] ・呼名の際は、友達の名前を教師の呼名に合わせて呼ぶことが分かり、呼ぼうとすることができた。徐々に発声が大きくなったり、発音が明瞭になってきたりしている。また欠席の友達に気付くことができた児童もいた。[対]

○題材における関連する各教科等の内容の経過・変容

	関連する各教科の内容	経過・変容
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・絵やシンボルマークで日付・曜日・天気や予定が表されていることを知り、選んだり、言葉やサインで表現したりする。 ・「はじめます」等の挨拶をしたり、日直の司会進行の係で簡単な台詞などを表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルの表す意味や言葉が一致するようになり、シンボルカードを提示すると言葉やサインで表現することができるようになった。 ・台詞にリズムをつけて表現したり、2つのサインを組み合わせて台詞を表現したりし、毎日取り組むことで、初めは「始め」や「終わり」の一音のみを発声していたところから、7月末にはワンプレーズの台詞を言うことができるようになった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・枠に対応させ、カードを貼る。 ・友達の出席について、いる、いないに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が示した枠の場所に注目して、カードを貼ることができた。生活リズムが落ちついた児童が、余計な力を抜き、一人で貼って手を離すことができるようになった。 ・呼名で友達の名前を全員で呼ぶ活動に取り組む中で、友達の顔と名前も一致し、欠席の友達に気付いて「○ちゃん、いないね」と発言することができた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばりまんのうた」を聴いて自分なりの楽しさを見つけようとする。 ・「がんばりまんのうた」を聴いて、身振りをしたり歌詞の一部を歌ったりして自分なりに表そうとする。 ・歌詞の中で自分の名前が呼ばれていることに気づき、反応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の流れてくる方向に視線が動き、曲が流れ始めることに期待して耳を傾けることができた。曲中も動きを制止して聴き入り、自分なりの楽しさを感じていた。 ・毎日聴いて馴染みの曲になったことで、曲が始まると自然と笑顔になったり、「がんばる」の振りをしながら身体を揺らしてリズムをとったりすることができるようになった。また、歌詞を覚えて、一部を口ずさむことができるようになった。 ・歌詞の中で名前が呼ばれ、友達に指名されたり教師に肩を触れられたりすることに、声を出して喜びの表現をすることができた。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。 ・朝の会での係活動に関心をもつこと。 ・天気について関心をもつ。今日の天気を外の様子や写真を手がかりに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼名する教師に姿勢や視線を合わせるように意識して返事をするようになるようになった。 ・呼名の際に、教師と視線を合わせ、ハイタッチで応じることができるようになった。 ・一定期間固定して係活動を継続することで、CDや給食ボードなどの操作物を目の前に持っていくと、自然と注目し、手が主体的に伸びた。 ・晴れと雨の2択は区別や選択ができる児童が、曇りの意味やマークを知り、外の雲の量を確認して、3択の中から天気を選択できるようになってきた。

○次題材に向けて

昨年度から朝の会を構成する項目や台詞は変えずに日々取り組んできたことで、全児童が朝の会の流れに慣れたり理解したりすることができている。内容の理解度については実態差があることから、内容の理解が難しい児童もいる。次題材では、感覚に働きかけるような教材教具も用いて、より理解を促していけるようにしていきたい。また友達同士が関わりをもてる場面や友達に意識をむける場面を設定し、より主体的・対話的な朝の会を目指していきたい。

2 学習指導案

みどりグループ 小2組 (【B】①) 日常生活の指導(朝の会) 学習指導案

1 題材名 「朝の会」

2 題材について

本グループは、知的障害と肢体不自由を併せ有する重度重複学級の小学部グループであり、小学1年生から5年生までの計5名で構成されている。そのうち3名は発語があり、言葉での簡単なやりとりを行うことができ、5名とも、その子なりの方法で教師からの働きかけに応じようとするができる。また、手先の操作が可能で、形の弁別、簡単な線画のマッチングなどの学習に取り組んだり、自分の気持ちを表情やサイン、言葉で伝えながら周囲と関わったりすることができる。移動に関しては、ずり這いや車椅子での自走、歩行などの方法で自力での移動が可能である。このような実態から自立活動を主とする教育課程で、認知的な学習や遊びの要素を含んだ学習などを設け、継続して取り組んでいる。朝の会では以下の3つを年間の目標として取り組んでいく。

- ① 朝の会に参加することで、一日の流れを意識することができる。
- ② 日直や係の仕事を通して、自分の役割を果たすことができる。
- ③ 朝の会に参加することで、学校生活に意欲をもって過ごすことができる。

3年生と5年生の2名は、入学から朝の会に取り組んできたため、会の流れや活動について理解し終わりの挨拶までを見通して会に参加することができている。昨年度までに取り組んできた内容を取り入れることで、呼名や係活動などを、自信をもって行ったり、昨年度よりも集団の中で自分を表現することに慣れたりしている様子が見られる。1年生の3名は、初めて朝の会に取り組む中で、少しずつ会の流れを理解してきている。まだ、終わりまでの見通しをもっている児童は少ないが、項目ごとの言葉と活動が結びつき、不安そうだった表情が明るくなったり、教師の問いかけに応じて発言したりする様子が見られるようになった。5月までは日直を週ごとに交替したりいろいろな係活動に取り組んだりして、全ての活動を全ての児童が経験してきた。これらと、題材記録表での各教科等の内容との関連の洗い出しをもとに、本題材の目標、各児童の個別目標を設定した。以下、設定した題材目標である。

- ・日課表のシンボルカードを見ることで、一日の活動内容を理解することができる。
- ・日直や曜日等の係の仕事や、自分の役割を行うことができる。
- ・友達の動きに注目したり関わったりすることで集団を感じ、朝の会に意欲をもって参加することができる。

目標達成のために、日課については、学習活動をシンボル化し、サインとシンボルカードを同時に提示する。また提示するものとの距離や配色等にも配慮して行っている。

更に、一週間の日課を提示する形式にすることで、楽しい活動を期待する気持ちを育てていきたいと考えている。1年生に関しては、シンボルカードを用いての取組自体が初めてであるため、カードとカードの意味する言葉との繋がりを、一つ一つ丁寧に確認しながら行っていく。呼名の際は、自分自身が呼ばれて返事をするのと同時に、顔写真を確認し、友達の名前と顔を一致させること、さらに友達の名前を、声を合わせて呼びかけることにも重点を置いて取り組み、友達との関わりを広げるきっかけとしたい。係活動を行う際は、カードの選択や返事を行うことで、友達を意識しながら集団の中で表現することを積み重ねていき、さらなる自信へと繋げていきたいと考えている。

朝の会という、毎日決まった活動を行う中で、自分が所属している集団を感じ、意欲的に学校生活を送ることができる姿を目指していきたい。また、自分の役割を果たす中で、主体的に行動する力や、周囲に伝える力、自分で選択する力を身に付けて欲しいと考えている。

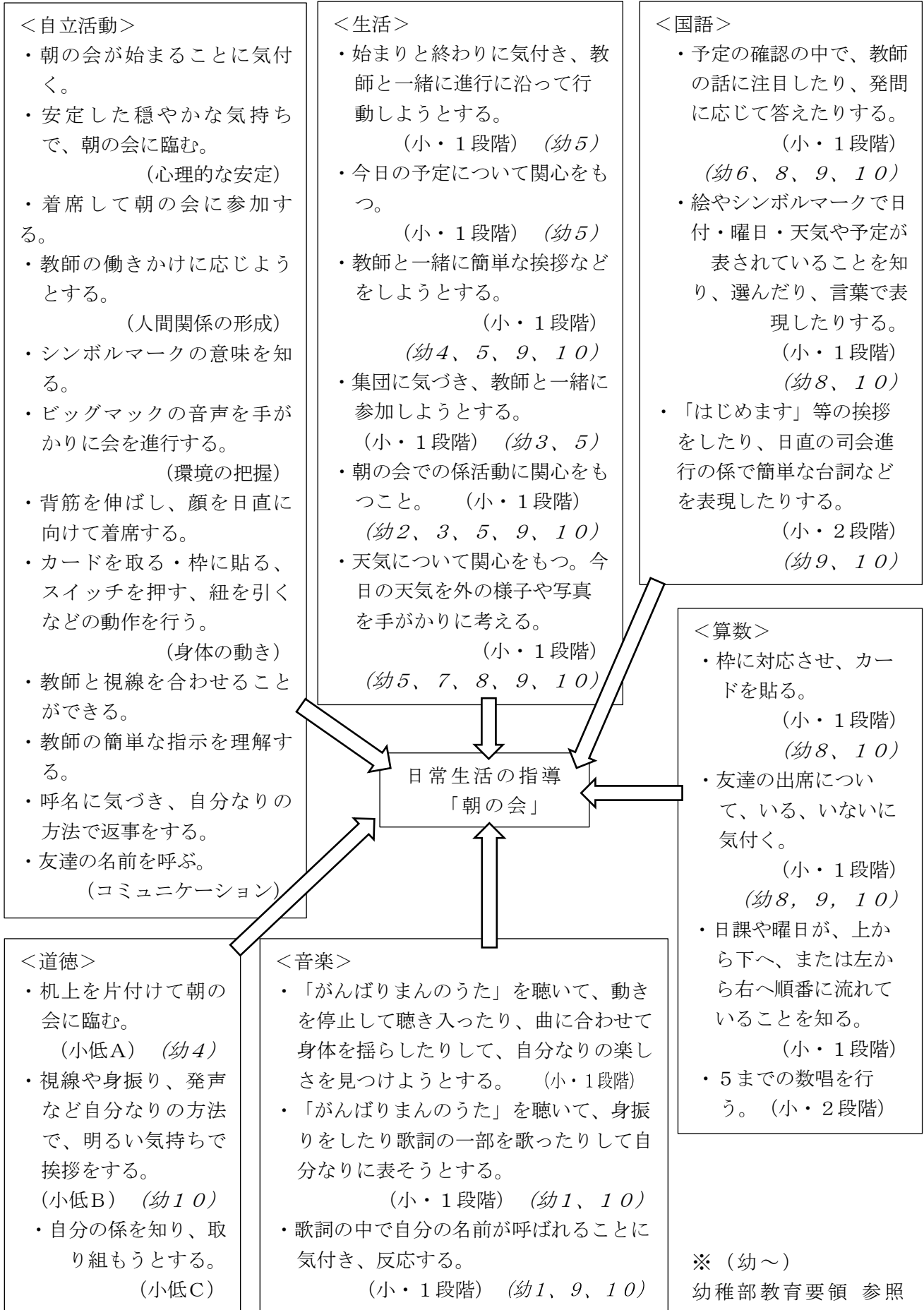
3 題材の目標

- ・日課表を見ることで、一日の活動内容を知ることができる。（知・技）
- ・日直や曜日等の係の仕事や、自分の役割を行うことができる。（思・判・表）
- ・友達の動きに注目したり関わったりすることで集団を感じ、朝の会に意欲をもって参加することができる。（主）

4 題材の計画（本時25時間目／53時間）

月	主な活動内容		
6月	全ての児童の活動	日直の活動	係の児童の活動
月	始めの挨拶 挨拶をする、挨拶を聞く	進行のスイッチを押す 進行の台詞を言う	
9月	歌「がんばりまんのうた」 歌を歌う、聴く		C Dデッキのスイッチを押す
	呼名・人数 呼名を聞く、返事をする 写真カードを受け取る、ボードに貼る 人数を数えるのを聞く、見る	写真カードを全員に見せる、手渡す	
	日付・曜日・天気 ボードに貼られた日付・曜日・天気を見る、言う 教師の話聞く		カレンダーから曜日を探してボードに貼る 天気を選んでボードに貼る
	今日の予定 日課カードを見る、言う 教師の話聞く		
	今日の給食 給食の写真カードを見る 教師の話聞く		給食ボードを開く
	終わりの挨拶 挨拶をする、挨拶を聞く	↓	

5 題材と各教科等の内容との関わり



6 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

主体的な学び（興味・関心、見通し）	対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える）
・興味・関心、可能な動作から、実態に合った係活動を設定する。	・友達の名前を呼ぶ場面を設定する。
深い学び（知識を相互に関連づける、振り返り）	
・呼名の返事に対して、即時評価をする。 ・係活動の取組に対して、即時評価をする。	

<授業づくり例（深い学びのための支援）>



<呼名の様子：教師とタッチ>



<天気カードを選んでいる：係活動の即時評価>

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・一日の活動内容を知ることができる。(知・技)
- ・自分の名前が呼ばれたことに気付くことができる。また、それに対して自分なりの返事をするすることができる。(思・判・表)
- ・係の仕事を行おうと、手を伸ばしたり言葉かけに応じたりして、意欲をもって参加することができる。(主)

(2) 本時の展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の手立て	教材・教具
1	<p>■…日直の活動（A） □…日直以外の児童の活動</p> <p>1 始めの挨拶</p> <p>■ビッグマックスイッチを押す。</p> <p>■サインを交えながら、挨拶を行う。</p>	<p>・全員が揃い、準備が整ったことに気付けるように、言葉をかけ、一緒に確認する。(T 1)</p> <p>・ビッグマックの音声は、聞き取りやすいように、ゆっくりとしたペースで録音したものを用意する。 (各項目共通) 主</p> <p>・言葉が自発的に出るのを見守り、難しいときは教師が始めの一音を伝えたり、先行してサインを行ったりして発語を促すようにする。</p>	<p>ビッグマック スイッチ (以下、 ビッグマック)</p>

<p>3</p>	<p>□挨拶をしたり、聞いたりする。</p> <p>2 歌「がんばりまんのうた」</p> <p>■ビッグマックを押す。</p> <p>■サインを交えながら、言葉を言う。</p> <p>□CDデッキのスイッチを押す。(D)</p> <p>■□「がんばりまんのうた」を歌ったり聴いたりする。</p>	<p>(各項目共通) 主</p> <ul style="list-style-type: none"> サインが分かりやすいように、ポイントとなる部分を教師と一緒に رفتり、見たりして、活動の理解につなげるようにする。(各項目共通) 押すタイミングが分かるように、ビッグマックを目の前に差し出す。 押す場所を指さして伝え、自発的な動きを待つ。気持ちがそれたり、動きが出なかつたりする時は、教師が手を添えて一緒に行く。(T2) 主 歌詞の内容が分かるように、サインを交えて歌うようにする。 児童の実態に合わせて、サインの表出を促したり、手をとって一緒に歌ったりする。(T2・T3) 歌詞の中の名前を呼ぶ箇所では、名前と児童自身が結びつくよう、教師が児童の体に触れたり、指をさしたりする。(T1～T3) 対 	<p>ビッグマック</p> <p>CDデッキ</p>
<p>7</p>	<p>3 呼名・人数</p> <p>■ビッグマックを押す。</p> <p>■サインを交えながら、言葉を言う。</p> <p>□写真カードに注目する。</p> <p>■□「せーの」の声かけで、写真カードの友達の名前を呼んだり、聞いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 押すタイミングが分かるように、ビッグマックを目の前に差し出す。 写真に注目し、名前を呼ぶ相手が分かるように1枚ずつ提示する。 端から順番に呼ぶことで、児童自身で呼ばれることを予測し、準備ができるようにする。 主 名前を呼ばれる意識がもてるように、名前を呼ばれる児童が写真カードを見たり、側にいる教師が児童に「呼ばれるよ」と知らせたりしたことを確認してから「せーの」と声をかける。(T1) 友達の名前を呼ぶ意識がもてるよ 	<p>ビッグマック</p> <p>写真カード</p>

	<p>□返事をする。</p> <p>□写真カードを受け取り、ボードに貼る。</p> <p>※人数分繰り返す。 (日直は最後に呼名)</p> <p>■□人数を数えるのを聞いたり、見たりする。</p>	<p>うに、「次は〇〇さんだね」と呼ぶ友達の名前を確認したり「一緒に呼ぼうね」と誘ったりする。(T 1 ~ T 3) 対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(D) 呼名の後、発声がない場合は、口元にマイクのように手をかざし、声が出るのを待つ。また、声が出ない場合はマイクに見立てた筒を本人に向けて発声を促す。(T 2) ・(E) 呼名の後、しばらく返事が返ってこない場合は、もう一度名前を呼び、教師と一緒に返事をして教師とタッチをするように促す。(T 1) ・(C) 目を見て名前が呼ばれていることに気付いているかを確認し、教師とタッチをするように促す。(T 3) ・児童が自分から手を伸ばし受け取れるように、目の前にしっかりと提示し、「どうぞ」と言葉をかける。(T 1) ・(C) カードを受け取る手が自分から出てくるのを待つ。手を伸ばさない時は教師が手を添えて行動を促す。(T 3) ・友達がお休みでない、ということに気付くように、欠席児童についても同様に呼名をして確認し、欠席ボードに貼る。(T 1) ・数字に触れる機会となるように、順番に児童に触れながら、出席の人数を数え、最後に指で「〇人」と示す。指で「〇人」と示すのを、児童が見たことを確認する。(E) (B) には人数を指で示してみるように促す。(T 1 ~ T 3) 	<p>出席ボード</p> <p>欠席ボード</p> <p>ビッグマック</p> <p>1週間</p>
7	<p>4 日付・曜日・天気</p> <p>■ビッグマックを押す。</p> <p>■サインを交えながら、言葉を言う。</p> <p>□1週間カレンダーの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・押すタイミングが分かるように、ビッグマックを目の前に差し出す。 ・黒板が見えるように日直の児童の 	

	<p>中から、曜日を探し、貼り付ける。 (E)</p> <p>□ 天気を選び、ボードに貼り付ける。(B)</p> <p>□ 教師の発表を聞いた り、ボードを見たり して今日の日付、曜 日、天気を確認す る。</p> <p>4 5 今日の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビッグマックを押す。 ■ サインを交えなが ら、言葉を言う。 ■ □ 日課カードを見 て、教師の話を見 る。 <div data-bbox="268 1332 630 1585" data-label="Image"> </div> <p>今日の予定を言葉やシン ボル、サインで確認して いる様子。</p> <p>2 6 今日の給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビッグマックを押す。 ■ サインを交えなが ら、言葉を言う。 □ 給食ボードを開け 	<p>体の向きを変える。(T 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日が分かるように、カレンダーの今日の部分を赤い枠で囲んでおく。 主 ・ 取り出す曜日が分かるようにカレンダーの枠内から、先に日付カードを取り出して貼る。(T 1) ・ 見やすいように、貼る箇所は黒地に白で示す。また、指さしで示し、貼る場所を伝える。(T 1) ・ 晴れ、曇り、雨のカードのうち、2 択にして提示する。悩んでいる時は窓の外を見て一緒に考えるようにする。(T 1) 深 ・ 曜日や天気に触れる機会となるように、T 1 が行う発表を聞きながら、一緒にサインをしたり声に出したりするよう言葉をかけて促す。(T 2・T 3) <p>・ 押すタイミングが分かるように、ビッグマックを目の前に差し出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日が分かるように、今日の予定部分は赤枠で囲んでおく。 ・ 今日の予定に注目できるように、黒板から、日課カードを順番にホワイトボードに移し替え、サインを交えながら示していく。(T 1) ・ みんなで確認するために、「これは何かな」等と質問を交えながら、丁寧に確認していく。(T 1～T 3) 対 <p>・ 押すタイミングが分かるように、ビッグマックを目の前に差し出す。</p> <p>・ 持ち手に視線が向くように提示し、手を伸ばして引く動きを待</p>	<p>カレンダー (日付・曜日 ボード) 日付カード 曜日カード</p> <p>天気カード</p> <p>ビッグマック</p> <p>1 週間 カレンダー (日課表と 日課カード)</p> <p>ビッグマック</p> <p>給食ボード</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>1</p>	<p>る。(C)</p> <p>□給食カードを見る、 教師の話聞く。</p> <p>7 終わりの挨拶</p> <p>■ビッグマックを 押す。</p> <p>■サインを交えなが ら、挨拶を行う。</p> <p>□挨拶をしたり、聞い たりする。</p>	<p>つ。 主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の動きが出ない場合は、手を添えて行動を促す。(T 3) ・手を離すことができるよう、「パッ」と言いながら隣で手を開いて見せる。少し見守り、難しそうな時は手を添えて行動を促す。(T 3) ・全員が確実にボードに視線を向けられるように、給食ボードを提示し、給食を発表する。(T 1) ・給食の発表では献立名だけでなく材料について触れたり「〇〇さんは好き？」等のやりとりをしたりしながら伝える。 対 <p>・押すタイミングが分かるように、ビッグマックを目の前に差し出す。</p> <p>・挨拶の後、児童が次の活動に移りやすいように次の活動を示す。 (T 1)</p>	<p>ビッグマック</p>
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

(3) 評価

- ・1日の学習活動を知ることができたか。(知・技)
- ・自分の名前が呼ばれたことに気付くことができたか。また、それに対して自分なりの返事をすることができたか。(思・判・表)
- ・係の仕事を行おうと、手を伸ばしたり言葉かけに応じたりして、意欲をもって参加することができたか。(主)

<教材の工夫>



<一週間のカレンダー：色つきの枠で囲むことで順序性が分かるように工夫している。係の児童のそばまで持って移動できる形になっている>



<給食ボード：持ち手を引っ張って開けられる>

V 研究の成果と課題

＜【A】グループ（各教科等を合わせた指導を行うグループ）：以下【A】＞

題材記録表で各教科等の内容との関わりを洗い出すことで、各教科等の内容を意識しながら指導や評価を行うことができた。また、行動記録評価表では日々の様子を記録することで、児童生徒の実態に合った手立ての工夫や見直しを行うことができ、目標達成に役立てることができた。国語では、文章の組み立てができるようになり、朝の会の中で一日の目標について学習内容を踏まえて発表することができるようになってきたことなど、児童生徒の変容が見られた。

＜【B】グループ（自立活動を中心としたグループ）：以下【B】＞

各教科等の内容との関わりを洗い出す中で、各教科等の内容に至るにはどのステップをクリアする必要があるかを把握でき、支援に活かすことができた。また、行動記録評価表では日々の様子を記録することで、児童生徒の小さな変化を見逃すことがなく、手立ての工夫や見直しにつなげることができ、目標に近づくことに役立てることができた。実際に、今日の天気を「はれ、くもり、あめ」のカードから選ぶことができるようになった姿や、教師が数を数え始めると動きを止めて耳を傾ける姿などが見られるようになってきた。

3年前の研究開始当初は、自立活動を中心とした学習を行う児童生徒が多数であるみどりグループでは、「各教科等の内容との関連を洗い出す作業をどのように行っていくか、難しさを感じる」という意見があった。しかし、各教科等の内容との関連を洗い出す作業で学習指導要領を読み込んだことで、同じ学習内容でも手立てや評価の視点が教科的なものに変わり、深まりが見られたこと等、教師の意識の変容が見られた。また、行動記録評価表を【A】・【B】グループともに活用し、試行錯誤を繰り返した。どちらのグループにとっても日々の変容が分かる行動記録が大切であることに気付き、様式の改善につなげることができた。

それぞれの様式を見直した後、それらを活用し授業改善を続けることで児童生徒の質の高い学びに迫ることができた。

1 題材記録表

○2年目の課題

- ・自立活動を中心とした学習を行う児童生徒にとっては、関連している教科的な要素が少ないと感じた。
- ・日生「朝の会・HR」であるので、おおよその流れが決まっており、各教科等の内容の関わりを洗い出しても、学級独自の工夫がされにくい。
- ・各教科等の内容との関連性を指導や評価に反映することが難しかった。



○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

- ・各教科等の内容の前段階にある児童生徒が大半を占めるため、関連する教科的要素は少ないが、授業要素として各教科等の内容との関連を洗い出し、それらを最大限意識して指導し、評価することができた。< 【A】・【B】 >
- ・肢体不自由を併せ有する児童生徒が、どの発達段階においても、各教科等の内容との関わりをもちながら、各教科等を合わせた指導をしているという根拠になるものを作成することができた。< 【A】・【B】 >
- ・各教科等の内容との関わりについて、各教科の小学部1段階に達しない児童生徒については、幼稚園教育要領 第3 幼稚園における教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を参照して記載することができた。< 【B】 >

< 課題 >

- ・毎日同じ流れの中で、気持ちや身体を整え1日の活動の見通しをもつという朝の会の性質から、大きく内容を変えることは難しい。< 【A】 >
- ・初期発達の児童生徒には各教科等の内容から目標を考えるのは難しい。< 【B】 >



○ 課題改善に向けて

- ・朝の会の各教科等の内容との関わりの洗い出しはおおよそできたため、【A】グループの生活単元学習等について各教科等の内容との関わりを洗い出すことに移行する。< 【A】 >
- ・朝の会の改善については、実態や興味・関心に合わせながら児童生徒が受け入れられるように、少しずつ無理のない形で行っていく。< 【B】 >

2 行動記録評価表

○ 2年目の課題

- ・3観点の目標に合わせて、個々の目標も3観点で立てた方がよいのか。
- ・題材を通して、成長の姿が分かる評価表があっても良いのではないか。
- ・「個別の本時の目標」が良いのか、「個別の目標」が良いのか。本時の目標に対しての評価となると難しいのではないか。
- ・グループ内に教育課程が異なる児童生徒が混在し、表出が少ない児童生徒の場合、文章で評価することが難しい。



○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

- ・個々の実態の差が大きく、評価規準を定めることや、3観点全ての目標を立てることは難しいため、評価規準は設けず、一つの観点について目標を立てることにした。また、授業の際に本時の評価をする様式は、単元の終わりに記入する評価表と同様の様式を使用する。しかし本時の目標とはせず、題材を通しての目標・評価基準に対して、本時はどこまで到達できたのかを、体調を踏まえて記入するようにした。そのことにより、日々、様子の異なる児童生徒の変化

に配慮しながら評価することができた。＜【A】・【B】＞

- ・評価表の個々の変容を記入する欄には、途中経過と目標を達成できた日付を記入し、成長の様子が分かるものにするのができた。また、通知表につなげることもできた。＜【A】・【B】＞
- ・教育課程や発達段階が異なる児童生徒が混在する場合は、段階別に経過の書き方を変え、発達の初期段階にある児童生徒は、目標のどの段階までできたかを数字で、日々記載する形をとったことにより、到達の状況を把握し、支援の工夫につなげることができた。＜【A】・【B】＞

＜課題＞

- ・成長が非常にゆっくりであったり、後退させないことが目標であったりする児童生徒については、設定した目標を、更にスモールステップに分けることが難しい。＜【B】＞



○課題改善に向けて

- ・日常生活の指導の朝の会以外の内容や、生活単元学習にも、行動記録評価表を活用していく。＜【A】・【B】＞
- ・児童生徒の実態に合わせて、スモールステップに分けず、目標そのものができたか、難しかったかの評価でもよいと考えることにする。＜【B】＞

3 主体的・対話的で深い学びの授業づくり

○3年目の成果と課題

＜成果＞

- ・評価の観点や視点が明確になり、児童生徒の意欲を高める評価へとつながった。＜【A】・【B】＞

＜課題＞

- ・初期発達の児童生徒にとって、また、朝の会の中では、主体的・対話的であることが難しく、朝の会の性質上、授業時間内に即時評価以外の深い学びにつながる手立てを講じることが難しい。＜【A】・【B】＞



○課題改善に向けて

- ・日常生活の指導の朝の会以外の内容や生活単元学習の中で、評価の観点を明らかにし、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを行う。
＜【A】・【B】＞